

くすり博物館だより



〒483 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone: 058689-2101

第16号

新館竣工

今秋オープン!

10月10日仮オープン

6/1~10/9 休館に!

昨年10月22日、無事に博物館新館竣工式を終えました。現在、オープンに向けて着々と準備を進めているところです。

10月10日に仮オープン、正式には11月下旬にオープンする予定です。新館はすべて展示場とし、本館は図書室、収蔵庫、そしてエーザイのPR室となります。また収蔵庫は、希望により研究者の方々には開放する

予定です。

これらの展示準備や、本館の改装工事のため、博物館は一時、休館いたします。期間は6月1日~10月9日です。ただし、付属薬用植物園は従来どおりご覧いただけますので、ご利用ください。

また、博物館に入る門が変わりました。川島工園の正門から入っていただいていたおりましたが、700m東へ進んだところの博物館専用門からお入りください。



▲博物館全景



▲博物館新館

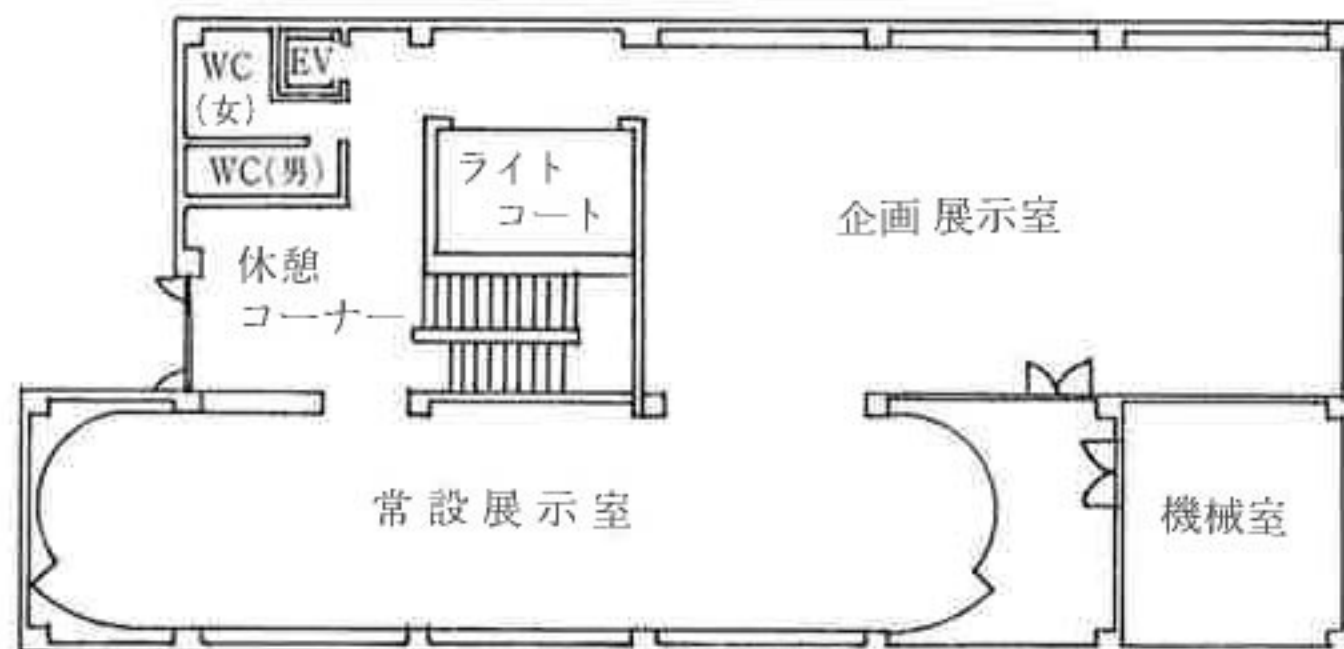
▼博物館専用門



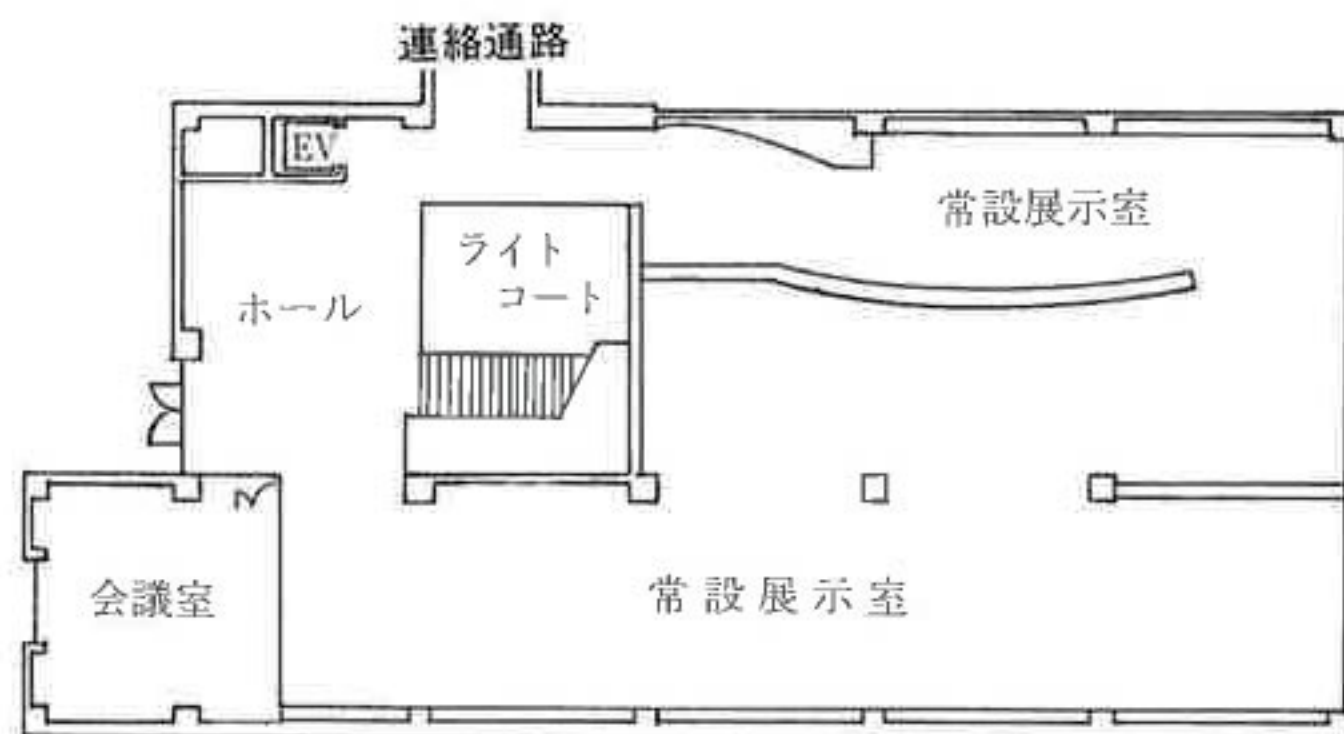
新館の展示は、従来のくすりの歴史的展示に加えて、セルフメディケーション（自己治療）の重要性と薬の正しい使い方を伝える展示が登場します。

くすりの歴史は、「健康への願い・祈り」「中国医学の伝来と発達」「蘭方医学の伝来」「くすりを作る」「くすりやさん」「病原菌との戦い」「新薬の誕生まで」から構成されます。また、生薬や度量衡資料の展示もいたします。

また219m²の特別展示室も設置。オープン時には木村雄四郎先生の特別コレクションの展示を企画しております。



▲2階 平面図



▲1階 平面図

くすり事始(3)

文化9年(1812)大坂の松尾健寿堂から発売されたウルユスは、わが国最初の洋方名の売薬であり、看板に横文字を用いた最初といわれています。

ウルユスは「たん(痰)、りゅういん(胸やけ)、しゃく気(さしこみ)の薬で、オランダ国ヘーストルの一大奇方とありますが、その処方不明です。

洋方名らしいウルユスは「空」の文字を3つにわけて名づけたもので「胃腸を空にする」から来ていると大言海に出ています。

看板にFLOYM VAN MITTRとありますがFLUIM(痰)、MIDDEL(薬)の誤りで、さらに文法も間違っています。天保11年(1840)

幕府は売薬の看板に横文字を用いることを禁じていますが、なかなか守られなかったとみえ嘉永6年(1853)「売薬の看板など蘭学を禁じているが、市中の諸看板に横文字を認め差し出しているものがあり、けしからん、早々に取り払うよう」と布令を

初の洋方名の売薬

ウルユス

出しています。

看板に「蘭方長崎」とうたっていますが、戦中までウルユスを作っていた子孫の方のお話ですと、本舗は大坂で、長崎とは関係が無いが、蘭方長崎とゴロを合わせたのだろうということなのです。

ウルユス販売の手引書として「ウルユス弘方心得書」という22丁の小冊子もあります。これには薬の正しい使い方、お客に対する説明の仕方などキメ細かく記載されており、今



▲ウルユスの看板

日でも立派に通用する心得書です。

*** **

先号で華岡青洲の全身麻酔をとりあげましたが、青洲より115年前、琉球の医師、高嶺徳明が全身麻酔をして兎唇(みつくち)の手術をした記録があると、松木明知先生(弘前大)よりご教示がありました。

*** **

薬草豆知識

ナツメグとメース

“一つの果実から2種のスパイス”

ナツメグもメースもコショウ(ペパー)やチョウジ(クローブ)とともに東洋産スパイスの代表的なものです。これはニクズク(Myristica fragrans)とよばれる熱帯性常緑高木の果実からとれるもので、アンズに似た果実は黄褐色に熟すと二つにさけて種子を落下させますが、落下する前に果実を採り、厚い果皮をむくと種子を包むような網状の鮮紅色の仮種皮をつけた黒褐色の種子ができます。この仮種皮がメースで、1~2週間天日乾燥すると黄褐色に

なります。また、種子を乾燥して殻を除いたものがナツメグで、一つの果実から二つのスパイスが生まれるわけです。これらは似かよった香味をもっていますが、ナツメグは甘く、やや刺激性のある香りを持ち、まろやかなほろ苦さがあるのにたいして、メースは甘味、刺激性が少なく、高



▲ナツメグの果実

雅な香味であるといわれて高価です。ともに肉料理、とくにひき肉料理によく利用されるスパイスです。

また厚い果皮にも芳香があり、塩水で洗ったのち砂糖漬して、菓子とする利用法もあり、インドネシアのパサール(市場)や町角で、シロップ漬けにして売られています。

ナツメグの木はモルッカ諸島の原産で、熱帯各地で栽植されており、20m以上にもなる美しい円錐形の樹形は特に印象的です。ジャワ島でもあちこちの屋敷にみられますが、必ず2本以上植えてあるのは、この木が雌雄異株だからです。

(薬用植物園 白井英夫)

新収蔵資料

● 阪本秀策先生寄贈資料

東京の阪本秀策先生から、資料・図書約2542点を寄贈していただきました。江戸後期、婚礼調度品として使

われた九曜紋蒔絵鏡台をはじめとした化粧道具類、第七陸軍技術研究所で戦前に使用されていたMerck試薬類、マイクロ分析用のガラス器具類、結核予防会発行の結核予防複十字シールを1952年から1985年までひとそろい等々、貴重なモノばかりです。特に試薬は、ホマトロピン、コルヒチンなどのアルカロイドをはじめとしたMerck有機試薬、Grüblerの色素など、当時としては極めて貴重なモノばかりです。

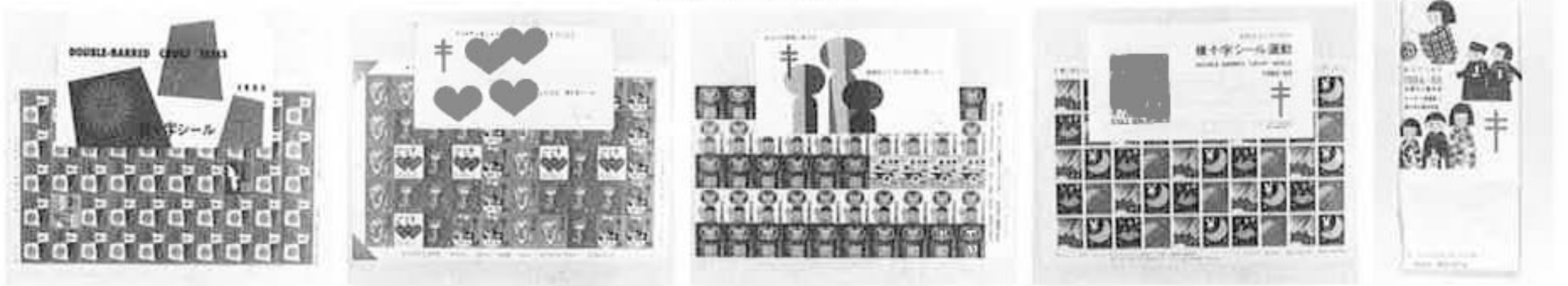


◀ 九曜紋蒔絵鏡台

▼ 化粧道具あれこれ



▼ 結核予防複十字シール



● 故稲垣勲先生蔵書1364冊

元名古屋市立大学薬学部長、稲垣勲先生(生薬学)の蔵書をご遺族の稲垣秀彦様より寄贈していただきました。蔵書は薬用植物、生薬関係が主ですが、特に近年中国で出版されたものが大半を占めております。中国へご出張の度に求められたこれらの図書を一人でも多くの方にご利用いただきたいとのご希望です。図書はコンピューターにインプット済みですので、ご希望の方には目録が提出できます。ご利用ください。

中国で出版の主な図書は次の通り

です。

医学名詞字源 医用生物化学 医用薬理学 内蒙古中草薬 雲南抗癌中草薬 雲南植物志 雲南中草薬 河北中草薬 河北中薬手冊 貴州民間方薬集 抗癌中草薬 江西草薬 広西薬用動物 江蘇植物志 湖南農村常用中薬手冊 湖南薬物志 湖北植物志 湖北中草薬志 四川中薬志 生薬学植物療法 新疆中草薬 滇南本草 秦嶺植物志 獣医中草薬臨床応用 常見混淆中草薬的識別 常見薬用食物 常用鉍物薬与丹薬 常用中成薬青蔵高原薬物図鑑 浙江民間

常用草薬 全国中草薬彙編 台湾薬用植物誌 中医方剤学 中国高等植物図鑑 中国薬用植物志 中国薬用真菌 中国有毒魚類和薬用魚類 中草薬学 中薬志 虫類薬的応用 東北草本植物志 農村中草薬製剤技術 北方常用草薬手冊

ほかに科学、化学、医薬の辞典、漢英、英漢の辞書類が数十冊があります。

当館には約2万7千冊の蔵書がありますが、中国出版のものは少なくこのご寄贈によって、さらに充実したものとなりました。

購入資料あれこれ



▲衛生看護様

▼綿絵広告



看護学校資料

京都府医師会看護専門学校で昭和初期に使用していた、教材用の人体解剖図、人体模型、往診用薬箱など24点が寄贈されました。

寄贈者御芳名

下記の方々からも貴重な資料・図書をいただきました

茨木：山田惣次	岐阜：小野里公重
千葉：水谷 米	三重：日本合成ゴム四日市工場技術部試験課
埼玉：帆足勇夫	奈良：橋爪勝次
東京：伊藤和洋、伊藤隆介	京都：津田泰信
大槻彰、木村雄四郎、田辺普、手塚吟二、虎谷豊二、山崎幹夫、山本平、アール	兵庫：浅田信雄、鳥田佳吉、坂田政泰
ピーシーラー株式会社、原章一	大阪：長門谷洋治、横田穰
滝戸道夫	鳥取：森 納
福井：林病院	海外：HARM BEUKERS、A.L. BIERMAN
愛知：大原準之助、世古口徹、竹内孝一、毛利孝一	(敬称略)

くすり博物館伝言板

◀適塾特別展▶

緒方洪庵が開設し、福沢諭吉、橋本左内らを輩出した適塾（大阪市東区北浜）で、特別展「適塾のころの医とくすり」を開催しています。（大阪大学 適塾記念会、くすり博物館共催）

シーボルトの薬箱、オランダ徳利、宮崎彥解剖図、製薬用具、看板、ほうそう絵などを出品。

期間：4月3日～4月26日

（日・月曜日は休館）

◀教育テレビで放送▶

NHK教育テレビ、高校化学講座で、くすり博物館の資料が登場します。

5月6日、12時20分からです。

とぴっくす

▶ビタミンEシンポジウム

去る11月29、30日の両日、当館大ホールにおいて、シンポジウム「川島カンファランス「ビタミンE」」が開催されました。約300名の研究者の方々が全国から集まり、熱心に討議が繰り広げられました。

▶ハード・ディスク導入

資料、図書データのインプットが完了し、1月末からハード・ディスクを導入しました。これによって、分類ごとにディスクを分けていたのが全データ1つにまとまり、総合的検索が可能となりました。

▶映写機寄贈

新館建設にご協力いただいた(株)日本設計事務所、住友建設(株)、高砂熱学工業(株)、東海電気工事(株)、須賀工業(株)の皆様から、エルモ16ミリ映写

機をいただきました。

▶映画制作中

来館者の方々にご覧いただいている映画「くすりをつくる」を内容を一新させて現在制作中です。カプセル剤、錠剤・注射剤の生産工程の映画で、小学生版も作っています。

▶美里工場展示替え

埼玉県にあるエーザイ美里工場でくすり博物館の資料の展示を続けてきていますが、3月下旬、展示替えを行ないました。

今回の展示は看板、薬袋が中心で時代による意匠の変化を目で見てもらうのが主な目的です。

また埼玉ゆかりの薬袋を展示するなど、地元の方々にとっては親しみを感じられるのではないのでしょうか。関東周辺の方々は、是非一度ご覧

になってみてください。

▶資料貸し出し

昭和60年度は、下記のとおり資料の貸し出しを行ないました。

東北電力主催「東北の薬草展」へ製薬道具・他 18点

一宮市薬剤師会主催「くすりと健康展」へ、らんびき、天秤等66点、

このほか、犬山市、稲沢市のくすりと健康週間行事にもパネル等の貸し出しを行ないました。



▶人事消息

退職 加藤靖子司書

採用 林裕子学芸員